鹿児島県のソテツ自生地

【所　在　地】指宿市山川町，南さつま市坊津町，肝属郡南大隅町・肝付町
【種　　別】国指定特別天然記念物
【指定年月日】昭和 27 年３月 29 日（国指定天然記念物　大正 12 年３月７日）

揖宿郡山川町のソテツ自生地

ソテツ科は世界に９属約 100 種類あり，そのほとんどが熱帯や亜熱帯地域に自生する植物である。そのうちのソテツ１種類だけが日本の南端にまで分布しており，八重山諸島，沖縄諸島，奄美群島から九州の南端までの地域に限られる。

県本土では，鹿児島湾入口の両側にあたる薩摩半島側の山川，坊津，大隅半島側の佐多，内之浦の４町に自生が認められ，自生の北限地として天然記念物に指定されている。いずれもやや乾いた原野の岩石の間に生え，特に山川町の竹山や佐多岬などでは，海岸近くの絶壁に生育している。

ソテツはイチョウとともに裸子植物（マツやスギの仲間）に属するが，雌株と雄株があり，花は単性花で花被をもたない。さらにこの両種の雄性配偶子は，被子植物や他の裸子植物と異なり　精子をつくるのが特徴である。ソテツの精子は，鹿児島県立博物館に現存する株を材料にして，池野成一郎によって発見された。

本県の奄美地方では，昔からソテツの実や幹のでんぷんを採取して，あく抜きをした後，ソテツ味噌を造ったりして食用に利用してきた。